

令和6年度 第2回宇治市部活動地域移行検討委員会会議録

会議名	令和6年度 第2回宇治市部活動地域移行検討委員会
日時	令和6年10月7日(月) 17時30分～19時30分
場所	宇治市役所 5階 501会議室
出席者	(委員) 長積委員長 林口副委員長 平田委員 木村委員 矢野委員 中西委員 青木委員 杉本委員 清水委員 須田委員 村上委員 (事務局) 福井教育部長 川崎教育副部長 武田教育支援センター長 安留学校教育課長 福山生涯学習課長 天花寺学校教育副課長 葛山学校教育課総括指導主事兼教育指導係長 宮脇指導主事 吉田学校教育指導主事 脇坂産業観光部長 柏木産業観光副部長(欠席) 岡部文化スポーツ課長 倉井文化スポーツ副課長 菅居文化スポーツ係長
配布資料	令和6年度第2回宇治市部活動地域移行検討委員会説明資料
1 開会 ・教育部長 開会挨拶 2 報告及び協議事項 (1) 学校部活動の地域連携・地域移行に関するアンケートの内容について ア 児童生徒、保護者アンケート イ 教職員アンケート (2) 【仮称】宇治市部活動地域移行推進計画の検討について (3) その他 (委員長) 宇治市の現状を把握するためのアンケートの素案について意見を頂きたい。 その次に、推進指針の素案を出すための意見を頂きたい。 (事務局) 児童生徒保護者アンケートについて説明 (委員長) 5、6年生が読めない漢字があると思うので、検討頂きたい。調査期間が1週間というのは、子どもたちはよいが、大人には2週間ぐらい取ったほうがいい。 (委員) 教職員アンケートの実施の時期は、いつごろか。 (事務局) 10月中に各校で実施と考えている。 (委員) 教職員のアンケートを見て、本当はできるけど、都合で顧問をできない場合があると思う。思いはいろいろあると思うので、そういう方も回答できるように検討されたらと思う。	

(委員長)

整理ができる限り修正する。

(委員)

問 12 の表現をもう少し分かりやすく。何に満足なのか、指導方針、指導方法というのは一体何なのかというのが分かりにくい。やりたいことがやれているかどうかということだと思う。

(委員長)

修正する。

(委員)

教員用の問 17 の中に自分の専門性を生かせる部活なら指導したりとかというのがあるとよい。

(委員長)

少し修正したい。

(委員)

児童の 4 ページの問 3-1-1 に、部活の種類があるが、部活の全てか。柔道はないのか。

(事務局)

部活として柔道はない。

(委員長)

文化部も網羅できているのか。

(委員)

コーラス部はないのか。

(事務局)

コーラス部はない。

(委員)

教員用の問 19、20 で、地域の指導者が担うことについて、反対もしくはどちらかといえば反対を選んだ人には、その理由や不安を聞く方がよいのではないか。

(委員長)

問 22、23 のところの、その他で対応したい。

(委員)

教師用の問 17 の絶対にやりたくないという人の理由を聞いてみては。部活動の手当が低く、もう少し上がったらいいのにという声が結構ある。

(委員長)

検討する。

(委員)

教師用、問 21、資格がない指導者が入っている意図は。

(委員長)

資格を持っている人にしてほしいと思っているかを聞きたい。ここにチェックがなければ、有資格者になってもらいたいということの裏返し。

(委員)

部活動の種類の中で、中国文化拳術、これは、太極拳か。

(委員)

太極拳の大会にも出場している。

(委員)

教員用の問 24、指導をしたいというのと、兼業兼職の許可を得た上で指導をしたいということの違いが分かりにくい。

(委員長)

再検討する。

(事務局)

部活動地域移行推進指針の検討について説明

(委員長)

同じ自治体でもコミュニティースクール、地域学校協働本部のなど地域の中学校区の実情に合わせている。その辺り学校の先生方や各団体の方々に御意見頂ければ。幾つかのパターンをイメージしながら、推進体制をどうするのかを考えていく必要がある。地域の団体の方々は、指導者になってもいいが組織運営までは難しいと言われている実情もあり、推進体制をつくるにあたり、教育委員会が外郭団体をつくって、一般社団法人で組織運営をするための部局をつくっている例もある。

また、スポーツ協会がいろいろな総合地域スポーツクラブの競技団体を統括するところや、学校の距離が遠いためスクールバスを活用し合同部活動を維持しているところもある。

人とお金と移動の問題をふまえ、どんな体制がいいのか御意見頂ければ。部活動の指導者を地域で探して、それを入れ替えるという発想ではなくて、地域再生とか地域に新しい仕組みづくりをしながら文化スポーツの振興を図っていくことを視点に踏まえながら考えていきたい。

(委員)

お金がかからず、現場も理想的な形でやれる、そういうところでいうと、どうだろうか。

(委員長)

お金がかからないというのは多分難しい。無償でお願いして続けるのは難しくなるので、経済格差については行政的にセーフティーネットをしなければいけないところはあると思う。一定の財源負担確保は家庭に求めざるを得なくなると感じている。

(委員)

お金はかかってもいいからとなるとどうか。

(委員長)

地域で一体になるのなら、地域学校協働本部のようなところを核に、スポーツ少年団やスポーツ協会などと協力体制を組む形をとる。体制は、学校を核とし、地域の文化スポーツの再編をする仕組みがいい。中学校区を中心に、子どもたちの文化スポーツを振興する場だけでなく、文化スポーツを再編して、共同で使えるリソースは宇治市全体で使う。

(委員)

C S コーディネーターや、それをつなぐ教師の配置がないと大変だろうと思う。

(委員長)

人的配置をすれば、お金はかかる。例えば国の実証事業なら、地域コーディネーターを配置するための財源を確保できるので、それを使って場つなぎをすることはあると思う。

(委員)

地域のスポーツ・文化団体の実態をどう把握するか。各団体として受け入れが可能なのか。

(委員長)

情報収集は当然考えるべきこと。ある市では市長が文化団体とスポーツ団体の指導者 100 人ぐらいを前に思いを語って、どんな連携ができるかフォーラムを行った。そういう場が必要。

(委員)

地域移行は子どもの活動を保障することを考え進めるべき。現在学校であれば、放課後や土日に先生が来てくれて部活ができる環境が整っている。試合の交通費はかかるが、子どもは部活に行けば居場所があり友達と楽しく活動ができ、勝った、負けたという喜びがある。それが学校部活動のよさ。それをどこまでキープするか。今この地域移行を検討し、どうしていけばいいのかと考えたときに、学校を核とするのが 1 番いいと思う。府の資料に事例 14 の拠点校方式があるが、中体連として大会を継続していくことを考えたときに、たくさんある部活動から子どもたちが選べる状況をつくってあげたい。拠点校方式で、大きい学校も小さい学校もあり生徒が減って部活の数が減っていく中で、例えば隣の部活動に参加できるシステムで、中学校の体育連盟は全国大会まで出場できる形を整備して、仮に指導者がいない場合は、地元から来てもらう形でどうか。地域移行としては緩やかだが、子どもの保障を大前提でいく。受入れの団体の負担も解消できると思う。

(委員長)

全市で統一できるかはわからないが、幾つかの学校が近いところにあれば連携・拠点型は一つのやり方。やりたいことの幅が広がることが重要。

地域クラブ化では経済的な格差が課題。学校部活動では公費で用具や場所などの整備ができるが、学校管理下外の活動では、予算の別立てをしないと、保障するのが難しい。新しい枠組みが必要。

学校の部活動を例えば平日に週 2 回とか週 3 回行い、一定学校での部活動を保障しながら、それ以外でももう少しやりたい人が地域のクラブに行く地域もある。隣接する学校が共同して一定拠点化し、距離が離れたところには資源を投じるなど、それぞれに応じて行う方法はあると思う。

(委員)

中学校の校長会で、子どもたちに活動場所を保障する観点から拠点校方式が議論に上がっている。

あと地域学校協働活動の中で、一緒に協働する仕組みができないか。学校により、成熟していないところもあり、一律には難しいが、学校は教育課程をどう社会に開いていくのかが大事なポイントなので、コミュニティスクール、地域学校協働活動本部をうまくかみ合わせて拠点校方式から発展させることができればよい。

(委員長)

始めの段階で拠点校化するときにも、一定の理解と協力を得られる形をとるのも重要。地域学校協働本部のようなものを保護者や地域の方々が一体感でやるために、その仕組みの中で進めていくことを理解頂く仕掛けが必要。

(委員)

事例の 14 が、まず第 1 段階としては必要。事例 2 や 5 など、いきなり地域移行ではイメージが付きにくい、先に拠点校方式で学校ごとの結びつきをつくり、活動を精選した上で、地域との連携を考えていくのであればイメージがつく。

例えば、事例の 11。拠点校指定しながらそこから、地域とつなげていくやり方がよいと思うが、コーディネーターを誰がどう担うのかが問題で、事例 14 の段階を踏むのが現実的。

(委員長)

地域連携が駄目なのではなく、拠点校で学校間のつながりに加え、地域の住民の方々もスポーツに参加できる場面ができれば地域クラブ活動ができていく。小学校と中学校が一気通貫できるとか高校と中学の連携があるとか、多世代でスポーツ・文化に見たり触れられたり、複数種目ができる可能性があるなら意味がある。コーディネーターは、総合型地域スポーツクラブの方がされる場合と、退職教員、退職の校長・教員の方のパターンが多い。学校にも地域にも、顔がつけられる人が多い。

(委員)

宇治市音楽連盟には合唱団が多く所属している。今、学校の合唱部が非常に少なく、中学校にはない。合唱をしたい子は本当にいないのか。宇治市少年少女合唱団に参加できる子はいいと思うが。一方で、西城陽高校は全国レベルの合唱をやっている。掘り起こせばやりたい子はいらっしゃると思う。合唱団もたくさんあるが高齢者ばかり。学校の文化活動と連携できる手だてはないのかと常々思っていた。

(委員)

ゴスペラーズのまねなど、切り口はある。小さいサークルでの指導者なら見つけられると思う。

(委員長)

若い人たちのイメージも取り入れていくことも必要。

吹奏楽に関して、拠点校は可能だと思う。

文化活動では、究学習の交流をするために、探究フェスという面白い名前をつくって、発表し合ったり、交わりの機会をつくったりしているところもある。

(委員)

事例 14 だが、保護者と生徒が混乱なく、スタートできると思う。どの程度の費用負担が発生するかも大きい。まずは自分の中学校と近隣の中学校が一つのブロックになり競技の人口が少ないもの同士がチームとして成り立つようにできていけばいいと思った。

そもそも部活動の地域移行の目的はどこが主眼か、少子化に対応する、子どもたちに提供できるのはもちろん、先生方の働き方改革も、目的の両輪だったと思う。並行型から先生方の業務負担の軽減につなげる方法があると思うが、そのあと土日の地域移行をどう進めるのかが難しいと思う。

なぜ地域移行を行うのかをしっかりと押さえないと後で説明がしにくい。

(委員長)

子どもたちに豊かな文化とかスポーツに親しめる環境をつくるのが大前提。その中で子どもたちを中心に地域に住んでいる方々も、文化とかスポーツを推進する新しい仕組みづくりが重要。だから、子どもだけではなく、子どもたちを中心としながら、地域の方々に、文化とかスポーツを親しめる機会をできる限り増やす。教職員の方々の働き方改革も当然、両輪であっていい。あくまでも、地域を中心として、ずっとその地域で文化とかスポーツに触れられる機会の仕組みづくりをしていきたい。

(委員)

拠点校で連携を図りにくい中学校はない。小中一貫教育のブロックを使うこともできる。

(委員長)

平日は学校部活動、週末は地域クラブで、気付けば週 7 日活動していたとうことは危惧されるの

で、適正な日数で適正な活動ができるようにする必要がある。

日曜日と平日のパターンが分かされると、活動日数が結果的に増えるので、平日を見据えた中で、地域と連携するほうが子どもたちの休息や家庭での活動も生かすことができると思う。

(委員)

まず部活動そのものをどう評価するか。目に触れるのは、市の市制記念日に、中学校の子どもが大会で優勝したなど。授業があり、延長線上に、部活動があったと思う。移行することは部活動をいそしむ子どもたちの場を与えることに主眼がある。授業の時間に音楽団体に行って、子どもたちがバイオリンを聞いたりさわったりすることも部活動なのか。今までと違う新たな授業以外の部活動の在り方を求め、それに地域も、協力をしていくのか、その主体性が地域なのかはこれからの話と思うが、なかなか読めない。

(委員長)

重要な点は、今までできなかったことがやれる機会を開くこと。学校が拠点化したときに、余剰の部分を使う方が見るなど資源の効率化を図る。違う方が違う役割を担うならば新しい種目や新しい活動を生み出すチャンスもあるし、今までこれがなかったから、部活動は入らなかったという子どもたちをキャッチアップできる。小学校の子どもたちに、中学校にはこんな活動があるのだよという体験会をしているところがある。触れてなかったものに触れるチャンスは実証事業でもできればいいと思う。底辺の拡大も当然図っていくべき。

今日一つ見えてきたのは、宇治市は中学校区のことも考えていく、小中の連携も図っていくということで、今のブロック制、エリア制をうまく生かし、連携を図るために地域がどういうふうに変わっていくのかを考えるほうが分かりやすい。

拠点型をつくるときにどういう連携の仕方ができるのかというのも、文化団体とか、スポーツ団体の方々の指導者や代表の方々に話を聞くとこれもしなければいけないというのが見えてきた。

(委員)

競技志向やレクリエーション志向があると思うが、スポーツでは、太陽ヶ丘を拠点に、施設を借りてタイアップするとか、市の体育館を拠点にするとか、競技性の高い子たちはそこでやるのもよい。

やはり施設も活用しないと、スポーツも、クラブになった段階で、学校の施設が使えなくなると活動の機会が減っていくので、活動場所の確保、そこをどう活用するのが1番いいのかを考えて、宇治でいうと文化センターで、吹奏楽や合唱やコーラスもできると思う。あとは大学もいいホールもあるので大学とも連携しながら文化的な活動もできたらどうかと。

(委員長)

合同部活では、学校の先生は自分のチームみたいな感じがなくなるという方が結構いるが、連携を図って宇治市として競技力を高めていくところに皆さんが賛同されるならばよい。

拠点化をして競技成績や技術を上げていく、底辺の拡大を両輪でニーズを考えていくために、それぞれでやっていく形をとるならば、美しいと思う。市全体で協力できるのかを踏まえていきたい。

公共施設をできる限り、宇治市の資源として多くの方々に開かれ、多くの方々がこの資源を有効活用できる形にしていきたい。

(委員)

一つの中学校に、例えばサッカーの先生が3人いると、片や一つの学校に0人となったときは、レ

ンタルみたいな、そういう仕組みはあるのか。

(委員)

ない。

(委員)

子どもたちがどういうスポーツやっていくのか、やりたいのか、やってほしいのか。指導者を地域の中で確保するのはかなり難しく、今、スポーツ少年団も、体振も、制度疲労を起こしている状況の中で、最終的には一つにしないと、マネジメントする人がいなくなる。

事例 14 は抵抗も少ないと思う。あとはお金の問題と人をどう配置していくのか。キーになるのがマネジメント、地域コーディネーターを育てていくということ。本当に将来的に市のスポーツ文化をどういうふうに宇治市が考えていくのか、住民が考えていくのかということも大きなターニングポイントかという気がするので、誰もができない苦手な分野、地域コーディネーターをどう使っていくのかを議論しておく必要がある。

(委員長)

マネジメントする人が重要と思うので、地域コーディネーターやマネジャーが、それぞれのブロックを機能させて、ブロックの中だけでなく、市全体をどうするかを考えるべき。

宇治市全体の文化スポーツはどうしていくのかは、スポーツ推進審議会も関わることがあると思う。宇治市が総がかりで実施するというターニングポイントになっていると思う。

(委員)

拠点校がある程度落ちつき、この学校にはこの部活動というふうになってから拠点校の顧問の先生が異動するときには、高校のように、なるべく拠点校に指導者を固めるようにする必要がある。

それとともに、総合型スポーツクラブをどんどん立ち上げ、運営母体になるようにしていく必要がある。学校は拠点校を進め、運営母体となる総合型は総合型で立ち上げ、いずれそこが合体して運営団体を総合型がする。宇治市全部を取りまとめる団体が、財源を分配していくようにしないと、個々のクラブでは対応できないと思う。やれる人は限られるかもしれないが、宇治には企業が多くあるので、市として財源を確保してブロックに分配し、指導者や教員に兼業兼職で手当を出すようにするとかしないといけない。拠点校にしたら学校でやって終わりになりそうな気がする。また学校が拠点校を受けたことで学校の教員だけで回すのは、しんどくなる。持続的にいろんな方の力の結集が必要。

(委員長)

気がついたら、ずっと中心が先生というのは望ましくない。もちろん学校の先生も協力をしてもらいながら、ブロックやエリアで総合型ができるかあるいは総合型ができなかったとしても組織体、学校の合同部活動のようなものをうまくコーディネートするところを是非つくるべきだと思う。いずれにしても、拠点校をつくり、そこの部活動の現場が回るだけではなく、その先を見据える中で、足りないところや、今までできなかったことができることを見据えていくのは重要。今のところは、単なるこの部活の地域連携地域移行だけじゃなくて宇治市の文化スポーツの振興のスキームというか仕組み、ビジョンとして埋めていくピースを決めておかなければならないと思う。

(委員)

事例 14 で行こうとなった場合、地域移行が進むのか心配がある。いつ総合型に変えていくのかとか、何か時期も見えないし、その辺はちょっと心配。

(委員長)

学校の先生の力も一定借受けながらも地域の人材の方々とか、連携を図って、新たな仕組みづくりをしていくところを見据えていかないと、取りあえず走らせるためというだけでは駄目なので、見つかった課題を解決していく形をしなければ発展がないと思う。事務局と相談し素案を提案したい。

人的配置はなかなか踏み込めないが、地域の人材を活用して少し踏まえて考えてもらいたい。

(委員)

現在宇治市全体で、競技ごとに何人やっているのかデータはあるのか。

(事務局)

生徒のアンケートから、一定吸い上げられると思う。

(委員)

中体連で全部活動の数は把握しており、宇治市だけを抽出することはできる。文化活動もできる。

(委員)

最終目標は、生涯にわたって、スポーツとか文化を楽しむという、生涯スポーツ生涯文化を目指すために、部活動移行という考え方は間違っていないが、最終的に生涯スポーツに生涯文化に移していくためのロードマップをしっかりと計画して行かなければいけない。

(委員長)

最終ゴールは当然考えていくべきだし、宇治市の場合は学校のエリアを核としながら、それぞれ文化、スポーツに一生涯楽しめる仕組みづくりをすることに軸足を置き改革していくのが重要。

どこに向かっているかと推進指針の理念と方針を一旦整理し、可視化できるように文言にしたい。いつまでにどこに、どんなふうに向かっていくのか、最終形がどこに何年後というのはまだはっきり分かるわけではないが、少なからず、我々が今回のこの取組のところで向かうことに対するアイデアを出したりすることは、必ずこれを示させていただきたい。それを踏まえ、小中もしくはその中学校のエリアとかブロックを活用して、その学校を拠点としながら、地域の方々と連携をしていくところを書けばいいのかと。あとは地域の資源や地域の方々の情報も集約をして、その情報を活用しながら、どうやって学校と連携できるのかどうかという情報も踏まえて次回また再提案させていただく。

3 閉会

産業観光部長から閉会の挨拶